

絆でつながる家庭教育支援セミナー共通スキルアップ講座

日時:平成29年10月6日(金) 会場:青森県総合社会教育センター 大研修室 午前の部 参加者数99名
第1研修室 午後の部 参加者数43名

絆でつながる家庭教育支援セミナー共通スキルアップ講座が、10月6日(金)に開催されました。県内で家庭教育支援に関わる人々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題などについて学習するとともに、支援者のネットワークを広げることを目的に行われました。

1 公開講演「親子を支援する上で大切なこと」 講師:玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友 氏

(1) 誰でも最初は素人

- ・妊娠期の支援が鍵をにぎる。
- ・子育ては母親一人でやるものではない。
- ・おばあちゃん世代の声がけに救われる。「子どもは泣かして育てろ!!」
- ・にこにこして大丈夫そうなママが実は大変。支援の対象は、全ての家庭



講師の大豆生田氏

(2) 支援する側の言葉が重要

- ・「子育てはお母さん次第ですよ。」というプロの言葉に一方的に傷つけられている。
- ・子育て広場には、アドバイスする人は必要ではない。分かってくれる誰かの言葉、寄り添ってくれる誰かの言葉に救われる。
- ・ほっとできる場所をつくろう。おしゃべりすることだけを必要としている。
- ・「大変だったでしょう。」と寄り添ってくれる誰かがいることで、親も子もがらりと変わる。

2歳前後の『イヤイヤ期』について

- ・成長のプロセスの一つ。
- ・自分でやりたいが実力が無くてできないから、イライラしている。
- ・言葉で上手に説明できない葛藤。
- ・ママをたたいたりかみついたりするのは、子どもが外で頑張ってきた分、ママを信頼でき安心して出せているから。

(3) 親子が元気になるために

- ・子育て広場に来ていれば大丈夫とは限らない。利用者の声の中には「サービスはたくさんあったが、子ども向けのイベントばかり。」「仲間が欲しくて…。」「友だちが欲しかった…。」「話を聞いて欲しかった。」「場に馴染めない。」「同じママグループばかり…。」という意見もあった。
- ・救いを求めても居場所にならないこともある。活動の場だけを提供するのは、親子を本当に救っていない。
- ・子育てをきちんとやろうとするから、一生懸命頑張っている人が苦しんでいる。指導やアドバイスよりも、親子が元気になったかどうかが大切。

親子を救うためには…支援者やスタッフからの声かけが重要

① 困っている親子はたくさんいる。⇒困っているママに気づいてあげられることが子育て支援

例) 親子の両方が不安の場合(子どもが親のひざから離れない)⇒大概困っている

② 関係性の支援や場の設定⇒小グループで本音を出せるように場の設定⇒工夫が必要(カナダの『NPプログラム』)

(4) 子育ての乗り越え方

- ・ **自分の本音を出せている人**が乗り越えている。
- ・ 極めて重要なことは**気づくこと⇒寄り添った言葉**をかけられる。
- ・ きちんとしたママたちは、ちゃんとしているから悩む。(正しい子育てをせねば・・・と無理をしている)
- ・ 本音は大切だ。(時には、感情的になるのも分かりやすく、悪くはない。)
- ・ **プロの支援者は子育てのやり方を見せない**。教えるのではなく、「ママ上手!!」と**親子の素敵**を支えること。
- ・ 母親がマニュアルに縛られると、赤ちゃんを見てにこにこしなくなる。母親には**生まれながらに子育ての能力はある**のに赤ちゃんを見なくなる。
- ・ 誰がやってもたいへんで難しい。子育て支援=親支援(親の育ちが良いと、子どもに返ってくる)



質疑応答の様子

ママの機嫌が良いこと⇒赤ちゃんへの言葉がけ⇒健全に良く育つ、思春期まで親子関係がうまくいく

<公開講演の参加者のアンケートから>

- ・ 子育て支援とは、親を支援することが大切だと改めて学んだ。本音が出せる「居場所」になる。心に寄り添いながら、アドバイスは必要ない。聞き上手になって悩む親を応援したい。
- ・ 保育士の立場としてだけでなく、母親としても話を聞いた。自分の子どもたちはもう大きくなってしまったが、自分が困っていたときにこの話を聞けたらもしかしたら何か変わっていたのかなと思った。これからは心に寄り添える支援を大切に、お母さんたちの困っていることをまずは気づいて話を聞くことを大事にしていきたい。
- ・ 子育てが一段落して何年も経つが、真っ最中の大変だった思いが溢れ、あの頃の私に話してあげたい気持ちになった。そうしたら、もっとあの頃の自分が許せたり、好きになったりしたかもしれない。

2 情報交換会「支援の在り方について考えよう～自分たちの活動の充実・発展のために～」

午後は、公開講演で大豆生田先生がお話された様々な取組や課題、今後のヒントを参考に、県内から集まった様々な立場の皆さんで情報交換を行いました。自己紹介、役割分担決め、「H27 家庭教育支援に関わる人たちへ」の動画を視聴した後、①子育て中の保護者のニーズについて ②支援者としてできること ③全体共有(ワールドカフェ形式)の内容で行い、大変有意義な情報交換の場となりました。



情報交換会の様子

<情報交換会の参加者のアンケートから>

- ・ ワールドカフェ形式の全体共有が安心して過ごせて良かった。同じ思いの方々なので、すごく伝わり共有でき、すてきな時間だった。
- ・ 参加者の中に支援者ではなく、子育てママの立場で参加していた方がいて、その方の意見がとても参考になった。偏りがちな考え方から離れて考えることができた。
- ・ 支援される側だったので、支援する側の苦労や取組を間近で聞いて、とても良かった。自分も支援する側に回ってみたい気がしてきた。
- ・ 寄り添うことが一番多く意見としてあった。簡単でいて、とても難しいことだと思う。いろいろなアイデアがあって新鮮だった。

<講師紹介>

大豆生田 啓友 氏



【所属】 玉川大学教育学部(教授)

【経歴】 青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻修了後 青山学院幼稚園教諭等を経て、現職

【専門】 乳幼児教育学・保育学・子育て支援

【社会的活動】 日本保育学会副会長、墨田区子ども・子育て会議会長 NHKEテレ「すくすく子育て」出演、NHK・Eテレ「おとうさんといっしょ」総合指導ほか

【主な著書】

『ママ先生が伝える 幸せ子育てのコツー今がづらいママたちへ』(赤ちゃんとママ社)

『これでスッキリ! 子育ての悩み解決100のメッセージ』(すばる舎)

『よくわかる子育て支援・家庭支援論』(ミネルヴァ書房)ほか多数